

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 かたくり)

事業所番号	O691500060		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井 館町		
所在地	長井市館町南 9-72-10		
自己評価作成日	平成 29年 3月 29日	開設年月日	平成 26年 6月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あふれる商業施設が立ち並ぶ地区に当事業所があります。地の利を活かし、利用者と一緒に近所のスーパーへ買い物に出かけたり、近くの土手等へ散歩に行く機会を持ち、地域の皆さんと関わりが持てるよう配慮しています。又、隣接する地域密着型特養や母体の老人保健施設へ外向き交流を図ったりもしています。ホーム内からは草木や菜園を眺めることが出来、その成長を見ながら利用者与会話を楽しみ、収穫した野菜を調理に活かすことで季節の移ろいを感じ取って頂いています。さらに、テレビ体操や足踏み体操を日課に取り入れれたり、介護予防センターへ出かけマシントレーニングを行うことで健康維持に努め、利用者一人ひとりが生き生きとした生活を送ることが出来るよう支援しています。法人内5棟のグループホーム間でスキルアップのため合同で研修会を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設されてまもなく3年、立地の特性を生かして、また、職員の努力の積み重ねで、毎年サービスの向上が図られている。上記「力点」に記載されているほか、次のような点に優れた事業所である。第1は、ベテランの職員が多いこともあって、「笑い声あふれるあたたかい我が家」という理念がしっかり職員に意識され、支援活動が行われている。第2に、法人全体の取り組みもあり、地域の関係事業所と協力した館町地域との交流が、防災からボランティアまで、年々多様になり、大きくなっている。さらに、例えばこれまで余り意識されていなかった水害対策など、目標達成計画に掲げた事業に着実に取り組み、毎年サービス水準を向上させている。また、家族との交流の拡大に向けて意欲的に事業に取り組み、その次のステップを検討したりしている。更なる向上が期待できる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 29年 4月 25日	評価結果決定日	平成 29年 5月 12日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を事業所内に掲示したり、各個人のネームプレートに挟み、常に意識しながらケアを行う事ができるようにしている。カンファレンスやスタッフ会議でのケース検討会では、理念に添ったケアの実践を確認し、検討しながらより良いケアを行えるよう繋げている。</p>	<p>設立時に職員で検討し作成した理念「笑い声あふれるあたたかい我が家」を事業所内に掲示し、またネームプレートの裏に印刷し、会議の際など折に触れ確認し合いながら共有し、実践に繋げている。職員は「笑顔」「あたたかく」「我が家」をキーワードとして日々のケアに取り組んでいる。</p>		
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>週3回近所の店に食材の買い出しに出掛けている。また、市内の催し物(マラソン大会の応援)や法人の行事にも出掛けている。地域が主体となり行った防災訓練や、神社の境内清掃にも職員のみだったが参加し、地域の方々との交流を図った。運営推進委員会の方や地域の方には、館町エリアの事業所で行なう火災訓練にも参加して頂いた。</p>	<p>昨年の目標達成計画を受けて、法人の他の施設等と協力して働きかけた結果、交流が拡大している。利用者は職員と一緒に買い出しや市内の催事・法人の行事に参加し、職員だけが地域の廃品回収・境内清掃や防災訓練にも参加している。また、地域からの事業所来訪については、餅つき大会に参加してもらったり、高校生のボランティアに加えて、傾聴ボランティアなどの来訪も得られるようになって、交流が拡大している。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>グループホーム運営推進会議にて利用者との関わりの中で、学び感じたこと等を伝え認知症の理解や支援の方法を広めて頂けるよう働きかけている。また、地域の方が認知症に関して疑問に思うこと等を伺い、それに対して理論づけしながら答える事により、認知症に関して深く理解して頂けるよう働き掛けている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市職員、地域住民、家族代表で構成し、2ヶ月に1回定期的に開催している。利用者の状況・取り組み等の状況報告を行い、委員の方より意見や質問、地域の情報を伺いサービスの質の向上に繋がっている。運営に関してだけでなく、地域代表・家族代表から、市への要望や質問を行なう等、自由に意見交換を行えるよう努めている。</p>	<p>地域包括の市職員、民生委員、家族代表と役職員とで、2ヶ月に1回開催している。事業所から運営・活動状況や課題の報告を行い、委員より意見や質問を頂戴している。委員からは特に、地域の行事や危険個所等の情報を伺いサービスの質の向上に繋がっているが、さらに、今後のサービス向上に向けて、推進会議の効果的な開催について検討している。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議にて、市職員より、介護保険や他事業所についての情報を得たり、地域包括支援センターに出向している職員を介して同様に情報を得ながら、市との協力関係を築けるように努めている。</p>	<p>運営推進会議に、毎回市職員から参加してもらい、情報を頂き、課題について意見交換している。一方、市の研修会等には積極的に参加し、市の要請があれば協力もしている。また、市の包括支援センターの支所が長井市立病院にあり、医療面での連携も緊密にしている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>県主催の研修会に参加した職員よりスタッフ会議内にて伝達研修を行い参加できなかった職員に対しては資料を配布したり、更衣室に身体拘束の具体例を掲示し理解を深めている。また、職員間で話し合いを持ち利用者の思いやなぜこの行動を取るのかを考えながら、安全に過ごして頂けるよう工夫しながら鍵を掛けずに関わりを持っている。</p>	<p>法人主催の研修会で、マニュアルや実践的な対応策について研修するとともに、行政や団体の研修会に参加した職員からの伝達研修で、知識ノウハウの向上を図っている。この場合、資料を配布したり、更衣室に具体例を掲示したり、職員間で話し合いを持ったりしている。また、経験豊富な職員も多くいるので、身体拘束をしないケアが実践されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する外部研修会へ参加した職員が、スタッフ会議にて伝達講習を行ない、虐待について学べる機会を設けている。職員間でもケアの方法について話し合いながら、防止に努めている。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は学習する機会が持てなかったが、職員が知識を習得することでスキルアップに繋がるよう次年度は研修の機会を持って行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には必ず契約書・重要事項説明書の説明を行い署名捺印を頂いている。契約書・重要事項説明書に変更があれば、事前に電話などで連絡をとり、家族とゆったりとした環境の中で説明を行い納得して頂ける返答が出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回定期的に運営推進委員会を行い、家族代表の方にも参加して頂き、地域代表・市代表・職員に対し質問・意見・要望を伺える場を設けている。また、今年度、ホームでの家族参加行事後に懇談会を行い、家族から意見を頂く場を設けてホームの運営に活かしたり、家族同士で悩みなどを話し合い家族間で助言を頂くなど双方向的な懇談会を開催することができた。	家族が面会や通院支援等で訪問した際には必ず意見を聴いている。また、意見箱を設置するとともに、運営推進会議で家族代表から意見を頂いている。28年度は、家族行事参加後に1棟で家族懇談会を開催し、清掃や家族への連絡等々について意見を頂き改善に繋げた。今年度は家族懇談会を更に充実すべく検討している。さらに、3年に1回は家族のアンケート調査を行い、分析も行ってサービス向上を図っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議で意見や提案を職員で話し合いながら運営に反映出来るように努めている。会議以外でも口頭や伝達ノートを活用し情報共有に努めている。代表者へは、エリア担当部長を通して職員の意見や提案を伝達してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ホーム長と面談を行う機会を設け、不安や悩み、要望等を確認し合っている。行事や作業を通して、職員の努力、実績の把握を行いながら、アドバイスを行い、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山形県社会福祉協議会主催の研修会をはじめ、法人内の教育委員会、グループホーム合同の研修会、また、長井市主催のセンター方式の研修会に参加し、個人のスキルアップからチーム力のアップへと繋がるよう努力している。今年度新卒の職員はいなかったが、エルダー制を取り入れ人材育成に取り組んでいる。	職員の研修機会を大切にしている。設置法人や福祉団体、行政の研修会に積極的に参加させるとともに、月例会議後に職場内研修を行い、伝達研修も行っている。新採職員があれば、エルダーを付けてOJTを実施したり、職員が希望すれば研修への参加支援を行っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会置賜ブロック会に参加し、交換実習やブロック会議を行いながら交流を図っている。法人内5棟のグループホームでも合同研修会を行い職員のスキルアップへと繋げている。長井市主催のセンター方式の研修会にも参加し、市内の他事業所とも交流を図ることができた。	グループホーム協議会置賜ブロック会に加入し、研修会に参加するとともに、他事業所との交換実習に参加させ、情報交換やネットワーク形成に努めている。また 法人内5棟のグループホームの定期的な学習会を行い、知識技能の向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望を受け自宅や施設へ訪問し、本人の困っていることや要望などを傾聴し本人の思いを汲み取れるよう努めている。また、不安が軽減されるようにホームの見学の受け入れや、家族よりセンター方式のシートを記入して頂き、本人の希望や不安を事前に把握し、入居する際には安心して入居できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が不安に思っている事や困っていることに耳を傾け、安心して相談していただけるように努めている。又、家族との話し合いの中で今後の方向性について一緒に考えながら要望等も組み入れ、より良い関係を築いていけるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族との話し合いの中で、今必要とされている支援は何か考えたり、伺ったりしながら、より良い支援に繋げている。また、在宅生活中のケアマネージャーとの連携を図りながら、本人や家族の思いなど伺い、入居後に必要なサービスの提供に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>「笑い声あふれるあたたかい我が家」を理念、業務目標に掲げ、個々の状態を把握し環境を整えながら、共に穏やかで安らぎのある生活が、送れるように配慮している。調理の場面では、調理の仕方を教わる等暮らしを共にする者同士の関係を築けるように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時、または電話などで、ホームでの様子を伝えたり情報交換を行っている。家族と一緒に利用者の立場になって考えお互いに信頼関係を築き理解を深めるよう努めている。家族が来訪された際は、ゆっくりと過ごすことが出来るよう居室へ椅子を準備するなど環境を整えている。</p>		
20		<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>親戚や知人の訪問時は、居室でゆっくりと会話が出来るように環境を整えている。また、家族と自宅に外出したり、地域のイベントや四季折々の場所へ出掛ける機会を設け楽しんで頂けるように努めている。特別な日として、行き慣れた店に食事や買物に出かける機会も設けた。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個々の個性を活かしながら、円滑な関係が築けるように配慮している。また、より良い関係性が築けるように、食席にも配慮している。お茶会やレクリエーションなどを通して、お互いの事を理解し認め合う関係性が出るように努めている。入居者の間に職員も入り、会話の橋渡しを行い、入居者同士関わりやすいように努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方へ面会に出かけたり、入院退居された方を見舞いに行き、本人の状況を把握している。家族と会った際は、情報交換を行い交流を図るようにしている。相談があれば、いつでも受け入れることが出来る体勢を取っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活している中でのその方の言葉や表情を毎日記録し、気持ちを汲み取れるよう、日々ケアの実践を行っている。センター方式を活用し思いや願い、これからやりたいことの把握を行い、職員が情報の共有をしながら、ケアにあたっている。都度信頼関係を築けるように努めている。	利用開始に当たって家族からシートを直接書いてもらい、生活歴や趣味などを詳しく把握している。また、利用開始後はセンター方式アセスメントシートを全職員に配布し、利用者の日々の表情や会話などから希望や思いを汲み取り、気付きなどを記載している。そして、これを担当者がまとめ、全員で話し合い共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活中のケアマネージャーや家族へセンターシートの記入を依頼し、これまでの生活環境、利用者・家族の思い、生活スタイルなど記入して頂き、職員一人ひとりが適切なケアが行えるよう努めている。家族面会時には、疑問点があれば確認し、職員間で情報共有を行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の体調や、生活リズムに合わせながら作業を提供し、作業を通しながら残存能力等の現状把握に努めている。一日の過ごし方や生活リズムを把握し、体調の変化が見られた際には早く気づくことが出来るよう状態観察に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式C-1-2シートを皆で作成し、利用者の意向を職員全員の目で見ることが出来るようにし、現在の課題や利用者の思い・希望を汲み取ったケアプランの作成に努めている。家族の気持ちと利用者の気持ちを尋ね、ケアプランに活かしている。	センター方式で詳しく把握した利用者・家族の思いや要望を基に、ケース担当者や家族も参加してのサービス担当者会議を行い、率直な意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した具体的に詳細な介護計画に仕上げている。基本的には、モニタリングは担当者が3か月に1回、計画の見直しは原則6か月に1回実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や言葉・表情・心身の変化など毎日記録し、情報共有に努めている。3ヶ月に一度ケアプランを評価しながら実施状況を確認し見直し等を行っている。ケアの中での気付いた点などは、伝達ノートへ記録し職員間で情報を共有しながら、実践や見直しに活かしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りでは、館町エリアの催し物として各事業所がまとも準備を行い、地域の方・家族にも参加して頂き楽しい時間を過ごすことが出来た。地域ボランティアの協力を得ることはできなかったが、家族と共に笹巻き作りを行ったり、推進委員会の方を餅つきのに招き行うことが出来た。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活からのかかりつけ医へ定期的な受診を行っている。日頃の生活の様子や体調の変化、身体状況など「受診時連絡表」に記載して、家族が持参され主治医より指示を得ている。家族の付き添いが困難な場合や状態の変化により付き添いも行っている。状態によっては、主治医へ電話で相談するなど対応している。	通常は家族、必要・状況によっては職員が同行し、本人や家族の希望する医師の診察を受けている。受診の際には、利用者の詳しい健康・生活状況を記載した「受診時連絡表」を持参し、医師の指示を同一用紙に主治医から直接記載してもらっている。それを基に、医師・事業所・家族の共通理解と連携が図られ、安心な医療・福祉の関係が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関として、介護老人保健施設リバーヒル長井・置賜総合病院・斎藤歯科医院と協力協定を結んでいる。昨年10月より医療連携看護師の配置により、状態変化の際の相談助言が行えるようになり、状況に応じて公立置賜総合病院へ救急搬送を行える体制をとっている。また、急を要する状態の場合、エリア看護師の協力も頂けるようになっている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、必要な情報を医療機関へ提供し、入院中の利用者の状態や治療の様子など医療機関への訪問や、家族からの連絡から情報を得ている。また、退院前には主治医・家族様と一緒に今後の方針を考え退院時相互に不安のないように話し合いをもっている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>今年度より医療連携看護師の配置により看取りまで行えるようになった。現在の所対象者はおられないが、利用者・家族の希望を確認しながら、今後そのような状況にスムーズに対応できるようにマニュアルの確認、学習会など行っていきたい。入居時には、「重度化の指針」を家族と確認して署名を頂いている。</p>	<p>重度化対応指針を基に、家族に十分に説明し、共通理解を得るように努力している。看取りについても、体制が整い、家族の希望もあり、現在看取りケアを実践している。研修で、職員の知識理解の促進を図っている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事業所独自で1～2ヶ月に一度、訓練を実施して、実践力を身に付けられるように努めている。緊急搬送時の事例より反省点を確認すると、職員で情報を共有している。今年度は、事業所内の応急手当普及員により、救急講習機材を使用しての訓練も行った。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと、訓練を実施している。その際には、推進会議委員の方にも参加して頂き行っている。事業所独自でも、毎月安全確認等行いながら訓練を行っている。今年度は、地域の防災訓練にも参加し、地域住民と共に災害について学ぶことが出来た。またマニュアルの整備や水害訓練も実施できた。	年2回、消防署の指導を得て総合的な訓練を実施している。その際、運営推進会議委員にも参加して頂いている。また、事業所独自に、毎月、基本的な訓練を行っている。さらに、28年度は、目標達成計画を踏まえ、マニュアルの見直しを行い、地域の同一法人の施設等と協力して、地域の防災訓練にも参加した。また、水害についても、避難計画を作成し、避難準備情報の段階で避難するなどの訓練を実施し、それを記録している。防災ラジオの整備や備蓄も行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、個人の人格を尊重することを念頭に置き、声掛けや関わりに配慮している。また、利用者の立場になって対応するよう心掛け、スタッフ会議でも、声掛けや関わりに付いて検討しケアに活かせるように努めている。	利用者は人生の先輩であるということを中心に意識しながら、人格を尊重し、声掛けや関わりについて配慮している。ユニット会議等では、声掛けや関わりに付いて気になる点、さらにはお茶や茶碗の置き方など細部にわたり話し合い、尊厳や誇りに配慮したケアに活かせるように努めている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いを表現できるような環境作りを行い、選択決定が出来るよう尊重している。食席の変更や食事の際の味付け等も、本人に選択して頂けるように対応している。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方らしい一日を過ごせるように、希望や体調に合わせ食事の時間を遅らせる等、自分のペースで過ごして頂けるよう、配慮しながら関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の可能な範囲で毎日整容を行い、届かない点を支援している。以前より使用されている化粧品を使用できるように準備したり、月1回の床屋も利用者の希望を伺いながら実施したり、オシャレが出来るように努めている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しでも季節を感じて頂けるように、行事メニューや旬の物を使うなど工夫している。また、旬の食材を入居利用者と共にメニューを決めて、一緒に調理をしている。本人の希望に合わせて、代替え品を準備するなども行っている。	職員と利用者の協力によって、3食とも手作りで温かく季節感のある家庭的な食事を楽しんでいる。材料は2日に1回、近くのスーパーと一緒に買い出しに行き、たまには差し入れの野菜・果物も使用される。四季折々に行事食が有り、誕生日メニューがあったりもする。時にはおやつも作っている。準備から後片付けまで皆で一緒に行い、和やかに楽しい食事となっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態、力、習慣に合わせて食事形態を変え対応している。食事摂取量・水分摂取量が必要な利用者には、その都度確認や記録を通してスタッフ間で申し送りをしながら、把握できるように努めている。必要に応じて母体の管理栄養士、言語聴覚士に相談出来る体勢も取っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。口腔内に異常が見られたら、母体の歯科衛生士へ相談・助言を頂き、義歯の不具合が生じた際は、ご家族に相談し歯科受診へと繋げている。義歯洗浄を、週2回実施し清潔を保つことが出来るように努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の表情や行動を観察しながら、声掛けや誘導を行い、排泄の失敗が少なくなるように努めている。職員間でも、尿量の観察や排泄状況を確認し検討しながら、利用者のADLにあったオムツ類の使用が出来るよう心がけている。	一人ひとりの排泄記録を基に、排泄パターンを皆で話し合いながら、認識や工夫を共有し、さりげない声掛け・誘導を行っている。現在では一人ひとりに合ったりハパンやパットの使用などによって、自立度の高い支援ができつつある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時や、食事の際にオリゴ糖入りの牛乳の提供や腹部マッサージを行い、便秘の予防に努めている。また、水分を多く取れるよう、お茶やお湯のポットを常備し、いつでも水分が摂れるようにしており、自然排便へと繋がるように努めている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に、事前に利用者に伝え確認を行い、希望に合わせて実施している。利用者に確認しながら共に衣類を準備し、入浴中は、ゆっくり会話を楽しみながら、安全に気持ちよく入浴できるよう努めている。	少なくとも週に2回は、入浴を支援している。利用者の希望や体調・様子に合わせて声掛けを行い、また利用者によっては曜日を固定して支援している。そして、入浴時も会話の内容や見守り方を工夫し、ゆっくり、気分よく入浴して頂けるよう努めている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前は、利用者に確認しながらフローアにて過ごして頂いたり、利用者の希望に添って臥床するなど対応している。一人ひとりに合った、照明具合や居室の温度・湿度の調整を行い、また、職員の足音や物音をなるべく出さないよう心掛け、安心して過ごして頂けるよう配慮している。自宅で使用されていた湯たんぽを継続して使用するなども行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認しながら薬を準備し内服の際は、内服一覧票を確認しながら、誤薬防止に努めるよう心掛けている。また、薬の副作用に等をスタッフ間で情報交換して共有し、異常の早期発見に努め、薬の変更時には利用者の体調に変化がないか確認し、記録に残すように対応している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	漬物作りや畑での作物作り、調理、編み物等を日々の生活の中に取り入れて利用者の経験や得意分野を活かすよう工夫し、生きがいを感じたり、楽しく生活を送ることができるよう支援を行っている。当日の献立書きを自分の役割として日課の中に取り入れる工夫等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日には、ホーム周辺を散歩したり、野菜づくりや収穫を行っている。また、フロアーの状況を確認しながら外出や買い物に出かけたり、外気に触れる機会を設け、家族の協力を得ながら、市内の行事や法人の文化祭への参加等支援を行っている。</p>	<p>日頃から散歩・買い物・野菜作りなどで外気に触れる機会をつくって外出を支援している。お花見やつつじ・あやめ園を見学したり、お祭りを観たり、マラソンを応援したり、文化祭に参加したり、四季折々に行事を行い、外出する機会をつくっている。また、家族の協力を得て、帰宅や買い物、美容院などに行けるよう、日常的に支援している。</p>		
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方には利用者で管理して頂き、出来ない方にはホームの金庫で金庫預かり証に記入し管理している。自分のお金で買い物をすることの大切さを職員は理解している。買い物の際は、自分で品物を選び、購入できるような支援を行っている。</p>	/		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望があれば、電話を掛けたり友人への手紙をポストに入れたり思いを汲み取りながら、支援している。また、年度末には、年賀状を準備し家族や親戚、知人の方との関係性が途切れないように支援している。</p>	/		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やフロアーには、季節を感じる事が出来るような装飾を飾ったり、他の利用者の方と一緒に作った作品や写真を飾り、明るく心地よい空間となるようにしている。毎日温度・湿度の確認を行い、日差しが強い時には、レースカーテンを使用し適度な光が室内に入るようにしている。冬期間は、フロアーと各居室に加湿器を設置し、湿度管理にも努めている。夜間や午睡時には、快適な休息が出来るように職員の声の大きさに注意したり、洗いをする際には、なるべく音を出さないように配慮している。</p>	<p>玄関を入ると季節の生花や手作り装飾に迎えられる。温度湿度が適切に管理され、光や色の柔らかい静かな空間である。居間はキッチンと繋がり、中央にテーブルやソファが置かれ、和室の空間もある。壁面には、利用者手作りの俳句・和歌の色紙や写真が飾られ、大人の家庭的な雰囲気がある。利用者はそれぞれの場所を選び話をしたり、寛いだりしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配置では、利用者同士の関係性を考慮し、居心地良く過ごせるように配慮している。キッチン前には昇降テーブルを置き、利用者と一緒に作業をしたり、調理の際は、味見をして頂きながら楽しく過ごして頂けるよう工夫している。和室スペースには、ソファやテレビが置いてあり、自由に座ることが出来る。畳には、長座布団を敷き、そこで自由に横になりながら休息できるようにしている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前使用していた馴染みのイスやテーブル等を持ってきたり、カレンダーや写真を飾り、居心地良く家庭的な環境になるようにしている。シーツ交換や掃除も定期的に行っており、清潔な環境になるよう、安全面にも気を付けながら配慮している。衣類の整理整頓では、利用者と相談しながらキャビネに明示したり、一緒に洗濯した衣類を戻し、利用者が分かりやすく使い易いように支援している。	居室にはベッドと作り付けの箆笥があり、使い慣れた鏡などが持ち込まれている。壁面や枕元には、家族との写真やカレンダー、表彰物が飾られている。清潔で整理もされ、本人が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン前に昇降テーブルを設置し、作業する際に、入居者の体型に合わせ、調理や食器拭き等を行いやすいように調節している。各居室には、自分で選んだ手作りの名前プレートがあり、他者の居室と選別しやすくなっている。洗面所には、一人ひとりのカゴを準備しており、愛用しているクシや化粧品等を入れており、自由にいつでも使えるように配慮している。トイレに自分で向かうことが出来るよう、明示するなど工夫も行っている。			